

会報

第 324 号

岩手県小学校長会
代表 川村 憲弘
事務局 TEL019(623)8955
盛岡市紺屋町2の9
盛岡市勤労福祉会館2F
印刷 富士屋印刷所



この一年を振り返って

岩手県小学校長会 会長 川村 憲弘

令和七年度も、残りわずかとなりました。この一年間、各校では、子どもたちの成長を願い、教職員が一九となつて教育活動を推進してきたことと推察します。校長先生方を中心に、確かな手ごたえを感じている時期かと思われま

す。まずは、これまでの学校経営を振り返り、子どもたちの姿に成果や成長を感じながら、来たる新年度に向けた方向性について模索、検討していただきたいと考えています。

に深く感謝申し上げます。

さて、今年度四月に行われた第六十三回定期総会にて、会員の皆様と、「創意に満ちた特色ある学校経営の推進」「教職員一人一人が各自の力を存分に発揮できる職場づくりや魅力ある学校づくりの推進」を目指すことを確認しました。さらに、校長として、校長同士や各関係機関との「つながりを大切にする」と、「教職員のリーダーとして「学び合い、学び続けること」、教職員のやりがいや充実感を高め「魅力ある教員を育てること」についてもお願いしました。

校長会会員同士をはじめとする様々な「つながり」につきましましては、県内各地区、県及び国、さらには、被災地と

の関係構築を図ってまいりました。地区間の連携につきましては、県理事会などでの情報交換の場において、課題や研修等の取組を共有する時間を大切にしました。また、国や県などの情報をいち早く提供しました。今年度の被災地区の訪問では、吉里吉里小学校、山田小学校、気仙小学校を訪問させていただきました。被災地の現状を把握し、その状況を全連小会長会や理事会にて報告しました。全連小には、本県の状況を理解いただき、支援など国への要望が引き続き継続されることが決まっております。

大会の準備も、地元校長会の先生方の組織力とご尽力により着実に進んでおります。本研究大会の一層の充実を全会員と共につくっていくことが必要です。

県内各校において欠員が補充されない状況や、教員採用試験の倍率低下など、教員不足が深刻な課題となっております。子どもたちの成長を身近で感じ、その瞬間に立ち会えることができるこの仕事の魅力を教職員と共有していくことが重要です。子どもの笑顔と共に教職員の笑顔も増やすことで、岩手の教育をつくり、発展させていく魅力ある教員の育成に、今後も取り組み続ける必要があります。

また、来年度六十回目の記念大会となる県研究大会和賀

祝 教育者表彰

岩手県小学校長会
会長 川村 憲弘 氏

文部科学省では、昭和三十四年から、国公私立学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）の校長や教員を対象に、学校教育の振興に特に顕著な功績のあった方を称え、表彰を行っています。

本年度は、十二月三日、令和七年度教育者表彰式（会場 文部科学省）が執り行われ、全国から百五十七名の方が表彰されました。

本県小学校からは、岩手県小学校長会会長 川村憲弘氏（盛岡市立津志田小学校長）が、表彰を受けられました。表彰式では、小林副大臣から表彰状と記念品が贈呈され、長年にわたり教育の向上発展に御尽力いただいたことに対する心からの感謝の意と共に、今後の一層の御活躍への期待が受賞者に伝えられました。

会員一同、川村会長のこれまでの本県の教育への功績に対しまして敬意を表すると共に、この度の受賞に心からの祝意を表したいと思います。誠に改めてとうございます。

令和七年度 各部の活動報告

総務部

総務部は、本会運営全般に関わる企画・立案及び庶務事項に関する活動、並びに東日本大震災対策活動等を行った。

一 総務部担当活動

① 理事会・評議員会

- 第一回理事会・第一回評議員会 (四月十八日)
- 本年度の組織構成等の確認

② 第二回理事会 (六月九日)

- ・第六十三回総会の反省
- ・全連小、東北連小理事会報告
- ・東北連小秋田大会、全連小福岡大会について
- ・第六十回岩手県小・中学校長研究大会和賀大会について

③ 第三回理事会 (九月十二日)

- ・全連小・東北連小関係報告
- ・第六十回岩手県小・中学校長研究大会和賀大会について
- ・県常任理事被災地訪問報告
- 第四回理事会・第二回評議員会 (十一月十四日)
- ・全連小・東北連小対策・教育課程調査研究報告
- ・全連小理事会、同福岡大会報告

- ・東京電力福島第一原発・被災校等視察報告

- ・令和七年度岩手県教育委員会への要望事項について
- 第五回理事会・第三回評議員会 (二月二十日)
- ・全連小理事会、東北連小理事会報告
- ・令和七年度岩手県小学校長会収入・支出決算(中間)報告
- ・令和八年度行事予定

- 総務部担当理事・地区事務局長合同会議
- 第一回総務部担当理事・地区事務局長合同会議 (四月十八日)
- ・本年度の組織構成
- ・全連小福岡大会、東北連小秋田大会、第六十回岩手県小・中学校長研究大会和賀大会について

- 第二回総務部担当理事・地区事務局長合同会議 (二月二十三日)
- ・本会会務、中期決算報告
- ・令和八年度行事予定
- ・令和八年度第六十四回総会開催関係依頼事項の伝達
- ・各地区校長会の活動状況についての情報交流
- 常任理事会
- ・年間十一回開催
- ・今年度の活動方針と計画に基

- づく実施計画、活動反省等の協議・各部活動状況の共有
- 二 東日本大震災対策活動
- 東日本大震災対策特別委員会への開催
- 第一回 (六月九日)
- ・令和七年度東日本大震災対策特別委員会の計画
- 第二回 (十一月十四日)
- ・一関市立川崎中学校齋藤真校長による復興・防災に関わる講演会
- 第三回 (二月二十日)
- ・令和七年度東日本大震災対策特別委員会の成果と課題
- ・令和八年度被災地訪問計画
- 常任理事による被災三地区視察及び地区校長会等との被災状況等の情報交換
- 全連小理事会での被災地の状況説明 (総務部長 金野 治)

行財政部

行財政部は、本県の教育行政及び財政に関わる調査並びに要望に関わる活動を行った。

一 行財政関係調査

① 県調査

- 「校長の給与等」「教職員の病休者と補充状況等」「学校経営における要望を必要とする事項」「教材費の予算額」について実施。
- 全連小調査
- 「教職員定数改善等」「教育環境整備等」「教員養成」「働き方改革・処遇改善等」などについて実施し、全連小へ回答。

二 要望(提言)活動

- ① 要望書の提出
- 会員からの調査結果をもとに「本県義務教育の充実振興について」をまとめ、県教育委員会へ提出。(九月十二日)
- ② 情報交換会
- 「義務教育」「人事・服務」「生徒指導」の諸課題について、県教育委員会と県小・中学校長会との意見交換。(九月十二日)

三 全連小対策委員会

- 「特別部会の答申や改正給特法を踏まえて、働き方改革や処遇改善」「各地区の教員不足の状況と、教員の量の確保と支援

- 員等の活用の取組」をテーマに協議。(九月二十六日 東京都)
- 四 東北連小対策委員会
- 「各県における今年度の対策活動や要望活動の取組状況」「震災復興及び防災に係る人的措置、施設・設備、教材等の整備状況」「教員不足の状況とその対応」「様々な専門人材との連携」をテーマに協議。(十月八日 秋田県)

五 活動報告書

- 令和七年度行財政対策委員会活動報告書を作成。
- 六 諸会議の開催
- 行財政対策委員会(五回)、行財政担当理事・地区行財政担当者・行財政対策委員会合同会議(二回)を開催。(行財政部長 佐々木寿洋)

研修部

研修部は、学校経営の充実に寄与するため、教育課題に対する調査研究や研究大会等に関して次のような活動を行った。

一 会議の開催

- ・地区研修担当者会議二回
- ・調査研究特別委員会二回
- ・調査研究委員会 十回

二 調査研究活動

- ① 岩手県小学校長会関係



被災地区視察訪問 気仙小学校

「学びの専門職としての『働きやすさ』と『働きがい』の両立に向けた校長のマネジメントの在り方」を新しい研究テーマとして調査研究活動を行った。調査は、「『働きやすさ』に係る現状及び今後の工夫・改善点等について」「『働きがい』に係る現状及び今後の工夫・改善点等について」の二点に重点を置いて調査項目を作成し、グループフォームにてアンケート調査を実施した。

本年度は、調査結果のまとめを行い、来年度は、調査結果に分析・考察を加え、県小・中学校長研究大会和賀大会において研究発表する予定である。

②全国連合小学校長会関係
全連小の計画により、抽出校に依頼し、調査を実施した。

三 研究大会

①第六十五回東北連合小学校長会研究協議会秋田大会（七月三日・四日）は秋田市で開催された。本県百三十四名を含め東北六県から約八百八十名が参加した。国立研究開発法人国際農林水産業研究センター主任研究員の前野ウルド浩太郎氏による記念講演や十の分科会での研究発表と協議により、日々の学校経営に資する多くの学びを得ることができた。

②第七十七回全国連合小学校長

会研究協議会福岡大会（十月十六日・十七日）は福岡市で開催された。本県二十七名を含め全国から約二千三百名が参加した。十三の分科会や記念講演等により、全国の仲間とのつながりを広げ深める機会となった。

（研修部長 石亀 健）



東北連小秋田大会講演講師 前野ウルド氏

広報・編集部

教育情報の提供並びに会報、会誌の編集、発行等に関する活動を行った。

一 「会報」の発行

- ①第三二二号
 - ・岩手県小学校長会総会
 - ・地区校長会交流（岩手）
 - ・教育課題への対応（二戸）
 - ・役員等紹介 他
- ②第三二二二号

- ・東北連小秋田大会
- ・地区校長会交流（花巻）
- ・教育課題への対応（盛岡・和賀）
- ・事務局日誌抄 他
- ③第三二四号
 - ・一年を振り返って（会長）
 - ・全連小福岡大会
 - ・各部活動報告
 - ・令和八年度の主な大会
 - ・地区校長会交流（遠野）
 - ・教育課題への対応（紫波）
 - ・事務局日誌抄 他
- 二 「北奥」第六十二号の発行
 - 各地区から四十三名の会員に、「随筆・創作、教育実践、小論・提言、特集論文、復興の足跡」の執筆と、表紙デザインや挿絵の協力を得て発行した。
- 三 「小学校時報」への執筆
 - ①六月号「会員の声」
鈴木慎校長（白山小）
 - ②九月号「各県校長会の動き」
三浦建成校長（向中野小）
 - ③十二月号「会員の声」
堀井秀郷校長（大船渡小）
 - ④二月号「次回大会への期待」
村田浩隆県小学校長会副会長（仙北小）
- 四 全連小HPへの推薦
 - ①特色ある学校
新規として厨川小、大原小を推薦
 - ②写真で見る学校紹介（復興関係）

**五 新規として小袖小を推薦
特色ある研究校便覧（令和八・九年度版）**

・特色ある研究校として六校を推薦（緑が丘小、日詰小、八重畑小、甲子小、岩泉小、種市小）

六 諸会議の開催

広報・編集専門委員会を五回、担当理事・地区広報担当者・専門委員の合同会議を二回開催した。
（広報・編集部長 三浦建成）

生徒指導部

生徒指導の諸問題にかかる調査の実施及び児童の健全育成の推進を図るために、各地区小学校長会や県中学校長会と連携し、次の活動を行った。

一 会議の開催

- ①生徒指導担当理事・専門委員・地区生徒指導担当者合同会議
- ・第一回 四月十八日（金）
年間活動計画の確認
- ・第二回 九月一日（月）
調査結果の分析

各地区生徒指導の情報交換
②小・中生徒指導情報交換会
九月一日（月）

- ・調査結果の中間報告（小・中）
- ・県教育委員会学校教育室生徒

指導課長による講話「本県における生徒指導上の諸問題」

・生徒指導上の諸問題にかかる対応と小中学校の連携について情報交換

③生徒指導専門委員会（年五回）
（専門委員五名を盛岡市小学校長会に委嘱）

- ・調査内容の決定
- ・調査結果の分析考察・まとめ
- ・活動の反省と次年度方針協議（調査項目及び内容の検討）

二 調査研究活動

- ①研究主題
「生徒指導の諸問題にかかる調査研究」
（調査対象 令和六年度）
- ②調査方法
・県内全小学校長を対象にアンケート調査を実施
- ③調査内容
・「いじめ」問題
・「不登校児童」
・「少年非行」
・「学級経営上の諸問題」
・「情報化」
・「児童虐待」
・「震災の影響」

④調査のまとめ
・調査研究内容を報告書にまとめ、年度末に配付。
（生徒指導部長 武藤美由紀）

地区校長会研究交流

創意と協働の学校経営のもと、生き生きと学び、 将来への夢を拓く児童生徒の育成を目指して

遠野地区小中学校長会

一 はじめに
遠野市校長会は、遠野市内の小学校十一校・中学校三校の計十四校で構成されています。

本会では、小中の連携を図りつつ、教育DXの推進やいじめ・不登校対応、危機管理、キャリア教育、学校運営協議会制度など、今日的課題に関する学校経営の充実に資する研修を、年間六回程度実施しています。

二 研修計画の概要
本年度の遠野市校長会の研

修は、学校経営の充実を図るため、全体及び部会において

① 学校経営上の課題に応じたレポート（話題提供）を基にした研究協議

② 職場づくりや職員指導に関する事例を用いた研修

③ 東北連小・全連小学校長研究大会への参加と伝講

④ 小・中部会での主題研究（令和七年度東北連小秋田大会・令和八年度県大会への取組）

⑤ 危機管理、特別支援教育、働き方改革、ICT活用など、必要に応じた研修

研修計画の作成にあたっては、学びの深化を図るため、次の点を運営の柱としています。

① 学校会場の際には、授業参観・校舎見学に加えて学校経営説明を行うこと

② 研修の中で一、二回は今日的課題に関する講演会を実施すること

③ 隔年で管外視察研修を行うこと（今年度は実施）

さらに、市校長会議後には情報交換会や中学校区連絡会を随時開催し、研修に関する取組について共通理解を図っています。

三 小学校部会の主題研究

小学校部会では、特別支援教育の更なる充実を目指し、「校長の役割」「組織的な支援体制」「関係機関との連携」を軸に主題研究を進めています。

本研究は三年目を迎えて、本年度は東北連小秋田大会での発表も行いました。

これまで、研究テーマの共通理解を深めることを重視し、各校の事例協議に加え、特別支援学校副校長による講演や市子育て支援課との連携による研修など、多様な学びの機会を設け、研究の基盤を丁寧に築いてきました。

本年度は、秋田大会での発表を通して得られた成果と課題を整理し、次年度の研究大会につながるため、内容の再構成と検討を進めています。

これまでの成果と次年度への展望を踏まえ、その概要を

まとめます。
教育課題領域「自立と社会性」

◆研究主題

「特別支援教育の充実・推進に向けた学校経営の在り方」適切な支援を組織的に行うための校長の役割と指導性」

◆研究のねらい

特別支援についての各校の実態や課題を踏まえ適切な支援を組織的に行うための校長の役割と指導性を明らかにする。

◆研究の経緯

① 一年次（令和五年度）

ア 実態と課題の把握
イ 研究の方向性の確認
ウ 課題解決に向けた校長の果たすべき役割の確認

② 二年次（令和六年度）
ア 各校での実践と考察
イ 校長研修会での学習会
ウ 市内専門機関の視察研修
エ 課題解決に向けた校長の役割の確認・共有

③ 三年次（令和七年度）
ア 専門機関と実践の共有
イ 研究発表による提言
ウ 研究内容の再構成と検討

◆研究のまとめ

① 成果
ア 本市の支援体制と関係機

関の実態を整理し、全体像を共有できた。
イ 連携の具体と校長の役割を明確にし、指導性の向上につなげた。

ウ 研修で教職員の専門性を高め、支援の基盤を整えた。

② 課題

ア 寄り添う支援のため、関係機関との連携を更に深めること。
イ 指導性向上に向け、校長の専門性・識見を高めること。

四 終わりに

今年度も、これまでの成果を確かめながら次年度につながる学びを共有することができました。研究を重ねる中で、会員相互の視点がそろい、特別支援教育の充実に向けた組織としての一体感が一層強まったことを実感しています。

今後も、子どもたちへのよりよい支援と学校経営の充実に向けて、互いに知恵を出し合いながら取組を継続していきたいと思えます。

（遠野市立小友小学校 照井 宗克）

新たな教育課題への対応

ICTがつなぐ授業改善と人の温もり ～学力分析とICT活用による主体的な学びを目指して～

紫波地区小学校長会（矢巾東小学校の実践から）

理においても、「主体的・対話的で深い学びの実装」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」の三つの方向性が示され、併せて情報活用能力の抜本的向上も盛り込まれており、今後も授業改善とICT活用を一体的に研究していくことが求められます。

本校では、令和七年度に矢巾町教育研究所の授業改善発表会の授業提供校となり、算数科における思考力・判断力・表現力の育成に関する授業改善に取り組みました。その取組の様子を紹介させていただきます。

二 「思考の可視化」

授業の中で思考したことを発表するのは発言することが得意な子が中心になりがちでしたが、タブレットと電子黒板で共有画面を活用することで自分の考えを発表することに慎重だった子どもたちの思考が瞬時に可視化され、多様な考えを画面上で比較検討し、互いにフィードバックし合うことが可能になり、学びの深まりが顕著になりました。プロジェクト型電子黒板が各学級に導入され、黒板

スクリーンに書き込み、思考のプロセスが共有されました。「自分の考えを表現する」ことへのハードルが下がり、他者の考えを取り入れて自分の思考を再構築し、協働的な学びの良さを実感することができました。

三 指導主事からの学び

授業実践発表会に向けての一学期の授業研究会、当日の指導案について盛岡教育事務所の指導主事の先生方に直接ご指導いただきました。算数科の授業改善、ICTの効果的な活用について時間をかけてじっくりと学ぶことができました。このことが契機となりました。

所の研修会は全教職員が参加し、いくつかの教育課題について研修しますが、もちろんICT研修も実施しています。電子黒板の導入時、また、本校の希望で開催した「生成AI活用研修」にも講師が派遣され、ICTを学ぶ教育環境を教育委員会が強力にバックアップしてくれることは心強い限りであります。

新聞「プラス日報」を導入し、読解力、情報活用能力を育成しようという計画しています。情報の収集・整理・比較・発信するプロセスを学び、論理的な思考力を向上させることが期待できます。

六 対話の温もりを促進するICT

ICTの活用は個別最適な学びに適していることは言うまでもありませんが、本校で大切にしているのは「対話の温もり」であります。電子黒板に映し出された図形を指さしながら、身を乗り出して議論する子どもたち、すべての子どもたちの思考を授業に生かす教員、デジタルは決して人を孤独にするものではなく、人と人をより深くつなぐための架け橋になると感じています。

五 学力分析から育てたい力をICTを活用して

矢巾町では小学校・中学校ともに標準学力テスト五教科と知能検査を令和六年度から実施し、その結果を授業改善に生かしています。本校ではどの教科でも思考力・判断力・表現力に課題があることが明確となり、授業改善を図ることとしました。授業改善に生かすツールとしてAIドリルの活用があります。NRの結果を基にして最適な問題に取り組むこともできますし、一人一人のニーズに合わせて進めることもできます。

今後はよりよい活用方法を講師を招聘して学ぶことを計画しています。また、読解力に課題があることから「電子

四 矢巾町内のICT研修の活用

矢巾町では月に一回、本校を会場としてタブレット研修会を実施しています。クロームブックの活用について、講師から学ぶことができます。また、夏季休業中の教育研究

矢巾町では月に一回、本校を会場としてタブレット研修会を実施しています。クロームブックの活用について、講師から学ぶことができます。また、夏季休業中の教育研究

一 授業改善とICT活用
「主体的・対話的で深い学び」の授業改善とICTを活用した授業が求められていることは周知の事実であります。が、なかなか理想的な授業の姿が見えてきません。これは四十五分の授業の中で、どちらも両立させることのイメージがなかなかつかめないため、それぞれの研究や研修は行うものの授業の中でどちらも取り入れることの難しさがあると考えます。

次期学習指導要領の論点整



（矢巾町立矢巾東小学校 佐藤 啓）



大会 1 日目 分科会協議

**第77回
全国連合小学校長会
研究協議会福岡大会**

～自ら未来を拓き ともに生きる豊かな
社会を創る 日本人の育成を目指す小
学校教育の推進～



大会 1 日目 開会行事

また、松本剛大会実行委員長は、大会副主題に掲げた「志をもち多様な他者と協働しながら次代を創る人財を育む学校経営の推進」について、その意義を語り、これか

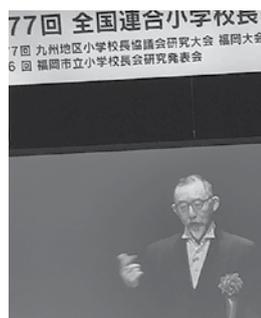
ら教育課題、学校経営の在り方に資する充実した大会となるよう期待すると述べた。開会行事の後は、文部科学省主任視学官・田村学氏による講話が行われた。次期学習指導要領に向けた検討が進む中、先般まとめられた論点整理から、「多様な子どもたちの深い学びを確かなものに」というキーワードも意識しながら、大会を通じて改訂の方向性も視野に入れた論議が必要であると述べた。そのため、学習指導要領の構造化、柔軟な教育課程の編成、探究の質的向上、学習評価といった四点について情報提供し、最優先事項となる「資質・能力の育成」、「駆動する知識」、「デジタルの利活用」、「カリキュラム・マネジメント」などについて具体的な資料をもとにした説明が行われた。

全体会の後、福岡国際会議場を含む十三会場に分かれ、研究テーマごとに分科会が開催された。全国二十六地区から貴重な実践発表があり、それをもとに熱心な研究協議が

行われた。特に、本大会においては、研究協議後に、日本教育経営学会、福岡県教育委員会の先生方から、発表内容に基づいた指導助言をいただいたことは、具体的な価値付けとなると共に、分科会全体のまとめにつながるなど、参会者にとって分かりやすく、有意義な分科会となった。

二日目は、全体会の後、講演テーマ「志す」と題して、聖家族贖罪聖堂彫刻家である外尾悦郎氏による講演が行われた。外尾氏は福岡出身であり、バルセロナにあるアントニ・ガウディが手掛けたサグラダ・ファミリアの彫刻家として名高い。外尾氏の生き方や考え方は、当地福岡の教育界が大切にし、大会副主題のキーワードでもある「志」と相通じるものである。「ふる

さとを強くもつものは、いくらでも遠くへ行ける」との信念のもと、四十七年間、サグラダ・ファミリアに関わり続け、ガウディが求めてきたものに向き合い続けてきた氏に、かつてのオリジンが故郷福岡であることが語り口から伝わってきた。私たち校長に向けて、「学校を子どもたちにとっての故郷にしてほしい」と訴え、子どもたちと共に喜び、感謝し、許すこと、多様性を受け入れることが大切であること、教育とは共生であることをメッセージとしていただいた。



大会 2 日目 外尾氏講演



二日間、多様な視点から学びと交流を深めることができ、魅力ある学校づくりを目指す、新たな一歩を踏み出す機会となった大会となった。(文責 広報・編集部長 三浦 建成)

令和8年度大会等のお知らせ

【令和8年度 第64回岩手県小学校長会定期総会】

- 1 期 日 令和8年4月17日(金)
- 2 場 所 盛岡市都南文化会館(キャラホール)
- 3 主 要 内 容 感謝状贈呈 行政説明 被災地状況報告 総会 第1回理事会・評議員会合同会議 各部担当理事・地区担当者・専門委員合同会議

4 日 程

12:00	12:30	14:00	15:00	15:15	16:00
受付 ・役員選考委員会 ・大会宣言起草委員会	総会1 開会 行政説明 被災地報告	総会2 議長選出 報告・議事 新役員挨拶 閉会	第1回理事会・ 評議員会合同会議	各部担当理事・地区 事務局長・地区担当者・ 専門委員合同会議	

【第66回東北連合小学校長会研究協議会 宮城大会】

- 1 期 日 令和8年7月2日(木)、3日(金)
- 2 場 所 東京エレクトロンホール宮城 他
- 3 主 題 「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す小学校教育の推進」
- 4 副 主 題 「夢をはぐくみ 志に高め ともによりよい未来を創造する子どもを育てる学校経営」

5 日 程

	12:30	13:30	14:30	16:10	16:30	17:00
【一日目】	受付	開会行事・ 全体会	記念講演	閉会行事	分科会 打合せ	
【二日目】	8:30	9:30	12:00			
	受付	分科会 (研究協議会)	閉会			

【第60回岩手県小・中学校長研究大会 和賀大会】

- 1 期 日 令和8年10月9日(金)
- 2 場 所 北上市文化交流センター さくらホールfeat.ツガワ 北上市立上野中学校
- 3 主 題 「未来を拓き 豊かな社会を創造する子どもを育てる岩手の教育」
- 4 副 主 題 (小学校) 「郷土を愛し 主体的・協働的に学び 夢と未来を切り拓く子どもを育てる学校経営の推進」

5 日 程

9:00	10:15	11:00	12:00	13:15	13:35	15:35
受付 アトラクション	開会 行事	講話	昼食 (移動)	全体研究 発表	分科会研究協議 (小・中別分科会) 閉会行事含む	

【第78回全国連合小学校長会研究協議会 北海道大会】

- 1 期 日 令和8年10月1日(木)、2日(金)
- 2 場 所 札幌コンベンションセンター 他
- 3 主 題 「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」
- 4 副 主 題 「ふるさとに誇りと愛着をもち ともに未来社会の創造に挑戦する子どもを育てる学校経営の推進」

5 日 程

8:00	9:15	10:15	11:05	11:45	13:45	16:50
【一日目】	受付	開会式	文部科学省 講話	全体会	移動 昼食	分科会
【二日目】	8:00	9:15	9:45	11:40	12:00	
	受付	全体会	講演	閉会式	教育視察研修	

事務局日誌抄

(令和 7 年 10 月以降)

- 10月 8日 東北連小対策委員会(秋田市・秋田市民交流プラザ)佐々木部長出席
東北連小第 2 回教育課程委員会(秋田市・秋田市民交流プラザ)石亀部長出席
15日 全連小第 251 回理事会(福岡・福岡国際会議場)川村会長、金野部長出席
16~17日 第 77 回全国連合小学校長会研究協議会福岡大会(福岡・福岡国際会議場他)参加者 27 名
28日 第 4 回行財政対策委員会(盛岡市勤労福祉会館)
全連小人権教育委員会(東京・全連小事務局)武藤部長出席
29日 第 7 回常任理事会(校長会事務局)
- 11月 10日 「いわて教育の日」のつどい(トーサイクラシックホール岩手)
14日 第 4 回理事会・第 2 回評議員会合同会議(都南公民館)
第 2 回東日本大震災対策特別委員会(都南公民館)
19日 第 3 回広報・編集委員会(盛岡市勤労福祉会館)
26日 第 4 回生徒指導委員会(盛岡市勤労福祉会館)
27日 第 7 回調査研究委員会(盛岡市勤労福祉会館)
- 12月 5日 第 5 回行財政対策委員会(盛岡市勤労福祉会館)
9日 全連小人権教育委員会(東京・全連小事務局)武藤部長出席
10日 第 4 回広報・編集委員会(盛岡市勤労福祉会館)
12日 第 8 回常任理事会(校長会事務局)
15日 第 8 回調査研究委員会(盛岡市勤労福祉会館)
- 1月 5日 岩手県教育関係者「新年を祝う会」(サンセール盛岡)
19日 第 2 回広報・編集部担当理事・地区担当者・専門委員合同会議(盛岡市勤労福祉会館)
21日 全連小基金管理運営委員会(東京・全連小事務局)佐々木部長出席
23日 第 2 回総務部担当理事・地区事務局長合同会議(盛岡市勤労福祉会館)
26日 第 2 回研修部担当理事・地区研修担当者・第 2 回調査研究特別委員会・第 9 回調査研究委員会合同会議(盛岡市勤労福祉会館)
- 2月 2日 第 9 回常任理事会(校長会事務局)
6日 東北連小第 3 回理事会・研修会(秋田市・メトロポリタン秋田)川村会長・村田副会長出席
9日 第 2 回行財政部担当理事・地区行財政担当者・対策委員合同会議(盛岡市勤労福祉会館)
第 10 回調査研究委員会(盛岡市勤労福祉会館)
第 5 回広報・編集委員会(盛岡市勤労福祉会館)
第 5 回生徒指導委員会(盛岡市勤労福祉会館)
- 12~13日 全連小第 252 回理事会(東京・KKRホテル東京)川村会長、金野部長出席
20日 第 5 回理事会・第 3 回評議員会合同会議(盛岡市勤労福祉会館)
第 3 回東日本大震災対策特別委員会(盛岡市勤労福祉会館)
- 3月 2日 岩手県小学校長会会計監査(盛岡市勤労福祉会館)
4日 東北連合小学校長会会計監査(秋田市・秋田拠点センターアルヴェ)三浦部長出席
6日 第 10 回常任理事会(校長会事務局)
23日 第 11 回常任理事会(校長会事務局)

編集後記

校長会会報も最終号となりました。令和七年度も各部において精力的に活動が進められ、学校経営の推進、研修の充実、組織運営の見直しなど、様々な課題に対し一歩ずつ確かな前進が見られました。各部から寄せられた活動報告は、それぞれの学現場を支える大きな力となっています。

ICT 活用が広がる中でも、子ども一人一人に寄り添う「人の温かさ」が学びを支えていることを紫波地区校長会の実践から学ばせていただきました。ICT の活用を進めつつ、「聞くこと」「話すこと」の学びを基盤とした表現力の育成に取り組んでいきたいと改めて感じました。

これからも校長会会員の強いつながりをもとにした学び合いを進めながら、岩手の教育を更に豊かなものにしていければと願っております。

一年間編集にご協力いただき、誠にありがとうございます。

(広報・編集部 佐藤 修)